

もも・ネクタリン特報



H30. 6. 29 No. 8

J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

6/6 に梅雨入りしましたが、降水量が少なく高温が続いております。害虫の多発が心配されますので、園地の状況をよく確認し、薬剤散布はムラのないよう丁寧に実施しましょう。（害虫対策については、下記の注意事項をご覧ください）

【定期散布】

もも

他作物へ飛散しないよう十分注意する。モモとネクタリンの混植園ではネクタリン防除を実施する。

◆ 有袋栽培で除袋が間近な場合は、除袋後にこの散布を実施して下さい。

散布時期： 7月10日～19日 頃（前回散布から15日後）

散布薬剤：	水	100%
	展着剤	20ml
	オンリーワンフロアブル	50ml（前日、3回）・・・殺菌剤
	ディアナWDG	10g（前日、2回）・・・殺虫剤

散布日	7月	日
散布量		リットル

対象病害虫：黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、（アザミウマ類）

10a 当り散布量： 600%

ネクタリン

散布時期： 7月6日～15日 頃（前回散布から15日後）

散布薬剤：	水	100%
	展着剤	20ml
	オンリーワンフロアブル	50ml（前日、3回）・・・殺菌剤
	ディアナWDG	10g（前日、2回）・・・殺虫剤

散布日	7月	日
散布量		リットル

対象病害虫：黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ

10a 当り散布量： 600%

注意事項（ももネクタリン共通：除袋後または無袋品種）

①シンクイムシ、カメムシ対策

⇒ ディアナWDGに代えて、アルバリン顆粒水溶剤の2,000倍（前日、3回）を使用する。

②カイガラムシ対策

⇒ コルト顆粒水和剤の2,000倍（前日、3回）を加用する。

次頁もご覧ください

☆収穫開始期 予想

南部地区 極早生種 7月11日頃～ 白鳳 7月25日頃～

平岡地区 極早生種 7月13日頃～ 白鳳 7月27日頃～

今後の気象状況により前後しますので、園地の生育状況をこまめに確認しましょう。

＊袋掛け作業は段取りよく進めるとともに、収穫前の着色管理(除袋・反射マルチ・葉摘み等)は遅れないようご注意ください。（極早生種注意）

○もも・ネクタリン肥大状況（6月25日現在）

【あかつき】

項目	縦径(cm)	横径 (cm)	幅 (cm)
測定値(cm)	4.9	5.2	4.9
前年比 (%)	105	103	104

【ファンタジア】

項目	縦径(cm)	横径 (cm)	幅 (cm)
測定値(cm)	5.0	4.3	4.0
前年比 (%)	107	103	104

【川中島白桃】

項目	縦径(cm)	横径 (cm)	幅 (cm)
測定値(cm)	4.3	4.5	4.2
前年比 (%)	101	100	103

＊生育が前年よりも進んでいるため、果実肥大も前年を上回っている傾向です。

今後の管理

- ◆かん水・・・現状は土壌が乾燥気味です
 - ・収穫10日前までは、必要に応じて灌水を実施しましょう。（せん孔細菌病の多発園は、樹上かん水を控える）
- ◆見直し摘果・袋掛け
 - ・袋掛けは、7月中旬までに終了するよう間に合い次第進めましょう。
 - ・スレ、サビ、うどんこ病、せん孔細菌病等が散見される園地では、摘果の際に注意しましょう。
- ◆夏季管理
 - ・日焼け防止・・・幹の太さが直径10cmを超えると、主枝背面が日焼けをおこしやすくなるので、フジホホワイト等を塗布する。また、背面の弱い新梢は日焼け防止に残しておく。
 - ・徒長枝切り・・・背面から発生した発育旺盛な新梢を中心に徒長枝切りを行なう。（日照・薬剤の到達、樹形の維持のため）
 - ・誘引・・・幼木や若木に対して、主枝や亜主枝養成のために行う。樹液の流動が盛んになり、枝がやわらかくなる夏季に実施する。
 - ・支柱立て・・・主枝、亜主枝の垂れ下がり、枝折れ防止対策として実施する。
- ◆下草管理 園内除草を徹底しましょう。 隣接園地に飛散しないようご注意ください。

除草剤使用基準 ・ ・ ・ 10 a 当り バスタ液剤またはザクサ液剤 500m l 水量 100～150 ^{リットル}